

日本語教育通信 第8号

発行日：2019年6月11日
発行：国際交流基金 派遣
日本語指導助手 大内 将史

5月もあっという間に過ぎ、徐々に暑くなってまいりました。「トルクメニスタンの日本語教育の今をお届けする」『日本語教育通信』第8号のお届けです。今号では、4月27日にアザディ名称世界言語大学（以下、アザディ大学）で行われた日本語コンテストの結果、小中学校での日本語教育の様子、そして、オグズハン記念トルクメニスタン科学技術総合大学（以下、オグズハン大学）で行われた科学フォーラムの様子をお伝えします。

まず、日本語コンテストの結果です。コンテストでは日本語を学ぶ学生たちが、詩の暗唱、スピーチ、パフォーマンスを通じて日頃の学習の成果を披露してくれました。詩の暗誦の優勝者は、金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」を発表したオグズハン大学の予備教育課程の女子学生、スピーチの部門Aは、アラバイ犬についてのスピーチ「トルクメン人の友達」を発表した、同じくオグズハン大学の予備教育課程の男子学生でした。そして、秋のモスクワ国際弁論大会行きの懸かったスピーチの部門Bの優勝者は、真の幸せについて問いかけたスピーチ「お金持ちになりたくないです」を発表したアザディ大学2年の女子学生でした。以下、入賞したスピーチのタイトルです。

順位	スピーチタイトル	所属
スピーチ部門A 共通テーマ「トルクメニスタン自慢」		
1	トルクメン人の友達	オグズハン大学予備教育課程
2	一番の宝物	オグズハン大学予備教育課程
3	トルクメニスタンの文化	アザディ名称世界言語大学1年
スピーチ部門B		
1	お金持ちになりたくないです	アザディ名称世界言語大学2年
2	しあわせってなんですか	オグズハン大学2年
3	世界で一番大きい宝	アザディ名称世界言語大学2年

✚ 小中学校の窓

国際交流基金派遣日本語上級専門家の佐藤です。

街を歩いていて、子どもから日本語で挨拶されたことはありませんか。もしかしたら、その子どもは学校で日本語を学んでいるのかもしれない。

2019年5月現在、日本語教育を行っている小中学校は全国に11校あり、日本語を学ぶ児童・生徒の数は4000人近くに上ります。

私は、日本語上級専門家の業務の一環として、1年に1回程度各校を訪問して授業見学を行い、先生たちに授業改善のためのアドバイスを行ったりしています。この訪問は、生徒たちにとって、日本人と話す数少ない機会という側面も持っています。はにかむ子ども、積極的に話しかけてくる子どもなど様々ですが、どの子ども“本物の”日本人に興味津々です。

皆さんも、もし街中で「こんにちは」と声を掛けられたら、笑顔で「こんにちは」と返してあげてください。たった一言のやりとりでも、その子どもにとっては大きな自信とやる気につながるはずです。そうして、将来日本や日本人が好きな大人に成長してくれたら嬉しいですね。



2年生の授業の様子。

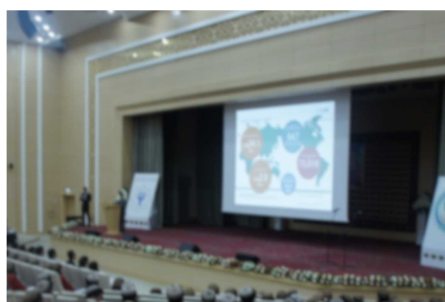
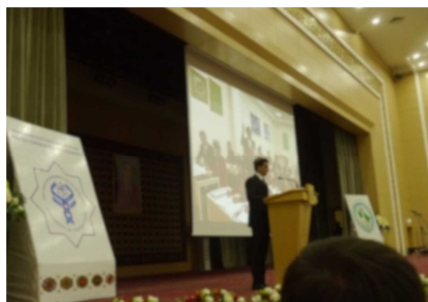
✦ 大学の窓【オグズハン記念トルクメニスタン科学技術総合大学】

オグズハン大学の田中です。

5月4日（土）に、本学講堂で、「トルクメニスタンと日本の協働による科学の発展」というテーマで、サイエンスフォーラムが開催されました。当日は、オグズハン大学メジロフ学長の開会の辞を皮切りに、日本大使館の勝亦特命全権大使の御挨拶、そして、当地でプラント建設を行っている、川崎重工業、住友商事、三菱商事の皆様、筑波大学から派遣され、オグズハン大学にて教鞭を執っている、松内先生、片沼先生、そして、大使館岡垣書記官が発表をしてくださいました（発表順）。また、オグズハン大学の学生2名も現在学んでいる学習の紹介をしました。

当地は在留邦人が少なく、両国民の交流の機会も限られているため、日本や日本文化との接触の非常に少ない環境です。しかし、経済や教育の面では、新しい絆が生まれ、育まれつつあります。ところが、残念なことに、そのような両国関係の萌芽に気づかぬ人々が大多数と言わざるを得ません。とりわけトルクメニスタンの未来を背負う若い学生たちには、是非、当地での日本人の活動を知ってほしい。また、それを日本語や日本文化の学習への動機付けとしてほしいと考え、本フォーラムを企画しました。幸い、事後アンケートでの評判も良く、「フォーラムは面白かったです」と、わざわざ伝えに来てくれた学生もいました。

本フォーラムに関わってくくださった皆さま、ご協力頂き本当にありがとうございました。一度限りでなく、このような企画が引き続き行われ、両国の関係がより深まっていく事を願っています。



左から、オグズハン大学学生による発表、日本企業の方による発表、客席の様子。

✦ 問題な日本語 — 「お疲れ様でした」

先日、平成天皇の御退位の際、「お疲れ様でした」と SNS に投稿したタレントのコメントが「失礼だ」と批判され炎上騒ぎになりました。「お疲れ様でした」は、目上に使うことのできない表現だというのがその批判の最たるものだったそうです。一方、各種国語辞典では、三省堂ほか、明鏡国語辞典、現代国語例解辞典では「目上に使う」としており、新明解国語辞典第5版のみが「目上の人には用いない」としているようです。

さて、これまで私自身も「お疲れ様でした」と学生に言われたことが少なからずあります。私はなんとなく引かかるのですが、同じ日本語教師でも「特に問題ない」とされる方もいます。言葉の使い方や形は日々変わっていくものであり、不変の「正しい言葉」は無いというのが言語学的な見方ですが、この「お疲れ様」の使い方、皆様はいかがお考えでしょう。